

## 援助者のためのコミュニケーション—発達障害児の保護者との連携を考える— (2/11)

### 平成26年度文部科学省委託事業 発達障害に関する教職員の専門性向上事業

#### (発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業)

平成27年2月11日（祝）に愛知教育大学教育未来館2A教室において「援助者のためのコミュニケーション—発達障害児の保護者との連携を考える」と題して三谷聖也先生（愛知教育大学大学院学校教育臨床専攻准教授／臨床心理士・家族心理士）を講師に研修会が開催されました。カウンセリングの専門家立場から発達障害児の保護者との連携についてさまざまな提言をいただきました。

参加者は28名、参加者の内訳は教育委員会職員1名、小学校教諭4名、中学校教諭1名、特別支教諭1名、スクールカウンセラー2名、支援員2名、その他援助職4名、学部学生1名、大学院生5名、大学理事1名、大学教員2名、大学事務職員1名、新聞記者1名、その他2名でした。一つの専門領域に偏ることなく多領域から広く関心を集めた充実した研修会となりました。

以下、本研修会のエッセンスを紹介いたします。

### 助ける側が助けやすいように助けられる側が助ける側を助けてくれる

援助者として大切にしたいのは、「助ける側」と「助けられる側」を切り離すのではなく、「助ける側が助けやすいように助けられる側が助ける側を助けてくれる」部分が必ずあると援助者が捉え、その部分に少しだけ手を貸していくという姿勢です。このような援助のあり方を意識することにより、独りよがりの援助や、空回り、燃え尽きなどを防ぐことができると思います。

### 「受容」「共感」の正しい理解を！

「受容」と「共感」は、教育領域ではカウンセリングマインドとワンセットで言葉としては知っているけれど、「受容」と「共感」の定義については意外と思いを違えていることがあるように思います。本研修会では、「受容」と「共感」の誤解を解くことから始めました。

1. 「受容」とは行動まで容認することではなく気持ちを受け止めるということ
2. 「共感」とは自分の似たような体験を伝えたり、共感できる部分だけに共感することではないということ
3. 心の中で「共感」しているというのでは不十分で、相手に伝え返すスキルが重要だということ

### 「相対評価」と「絶対評価」

「〇〇さんと比べてあなたは～」という声掛けは相対評価です。一方、「以前のあなたと比べて今のあなたは～」という声掛けは絶対評価です。一言でいうと相対評価は「個人間」の比較、絶対評価とは「個人内」の比較です。集団生活をする学校や社会では相対評価とならざるを得ません。そのような相対評価が優勢の社会では、人はときに息切れをしてしまいます。カウンセラーなどの心理専門職は、個人にとってその体験がどのような体験であるかについて深い関心を寄せ、徹底した絶対評価をしていくのです。相対評価優勢の社

会において、徹底して絶対評価をしていく存在はとても重要だと思います。ただし、そこは一時的なこころの居場所であればなりません。最終的には相対評価の厳しい世の中でも生きていけるように援助をしていくことを目指しています。

発達特性を有しているお子さんと保護者に対しては、援助者が相対評価のモノサシを当てはめようとするとなかなかうまく行かないことが多いと思います。援助のポイントは、一般的な相対評価の世界に招き入れようとするのではなく、絶対評価で彼らの世界に寄り添いながら、いったんそこに軸足を置き、そこから次の一步を連携しながら一緒に探していくということなのです。

## **保護者を呼んで何を話すかではなく、どう呼ぶか**

発達特性を有している子供の保護者と関わる場面を考えると、学校でのトラブルや不適應を発端とすることが多いと思います。ここで大切なのが、「呼んで何を話すかではなく、どう呼ぶか」です。問題を起こした子どもの責任者として保護者を呼ぶのと、子どもの問題を一緒に解決するための協力者として保護者を呼ぶのでは、その後の道のりが大きく変わります。

発達特性を有している子供の保護者と関わる上で重要なポイントは「連携協力者」として保護者と出会うというファーストコンタクトなのです。

(報告：愛知教育大学大学院学校教育臨床専攻 白石梓・竹口沙綾)

本研修会の内容は、「発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業」で作成されたテキスト『発達障害のライフデザイン支援 [連携支援篇]』に収録され、愛知県内外の管理職・研修担当教職員等の教育関係者に成果普及をいたしました。関連する一連の研究成果は、下記 URL にも掲載されております。どうぞ皆様の日頃の教育活動、支援活動にお役立て下さい。

<http://www.rinsho-center.aichi-edu.ac.jp/project/project3/index.html>